

## 乳房切断後の補整具を作製して

石月文枝<sup>1)</sup>・佐藤小夜子<sup>1)</sup>・星野育代<sup>1)</sup>  
外山隆子<sup>1)</sup>・山田さとみ<sup>1)</sup>・中川実千代<sup>1)</sup>  
山本富美子<sup>1)</sup>・中村静恵子<sup>1)</sup>・稲田由美子<sup>1)</sup>

### はじめに

女性にとって、乳房切断は心理的苦痛が大きく、また、術後の身体的変容に対する悲観と絶望は測り知れない。

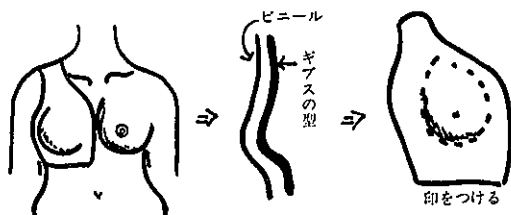
最近、乳房切断術をうけ、その変容に強い不安を訴える患者にであった。市販されている補整具をすすめたが、フィットせず、しかも高額であるとのことであった。

そこで私達は、どのようにしたら個々にあった補整具を作製でき、しかも退院指導の一貫として活用できるかを検討したので報告する。

### I 研究内容及び手順

1. ギプスを使用し乳房の型をとる(図1)。

図1 型取りしたギプスにビニールを当て輪郭をとる



2. 紅茶を使用し、ガーゼ・さらしを肌色に染める。

- ① 熱湯の中にティーパックを2個入れ、ガーゼ・さらしを3時間つけ、洗濯して乾燥させる。
- ② ティーパック5個をコーヒー50gの中に

入れ、ガーゼ・さらしを3時間煮て一夜つけた後、洗濯し乾燥させる。

- ③ ティーパックのみ5個で3時間煮て一夜つけ、洗濯し乾燥させる。

3. 型取りしたギプスにガーゼを敷き、綿をつめ、パットの作製をする(図2)。

図 2

- A 青海綿を下に敷きバンヤ・ナイロン綿をくるむ
- B バンヤ全体に敷く
- C ふくらみの部分にナイロン綿



綿は、以下の5種類を使用した。

- ① 青海綿のみ
- ② ナイロン綿のみ
- ③ 青海綿、バンヤ、ナイロン綿の混合
- ④ バンヤ、ナイロン綿の混合
- ⑤ 青海綿、ナイロン綿の混合

4. パットにあわせたカバーをつくり、出し入れのためにマジックテープをつけ、パットカバーを作製する(図3)。

5. さらしを芯にし、ガーゼ4枚重ねてパットシートを作製する(図3)。

6. スライムとストッキングを混ぜコンドームに入れ、さらしの袋に入れて重みを作製する。

<sup>1)</sup>三条総合病院第1病棟

図 3

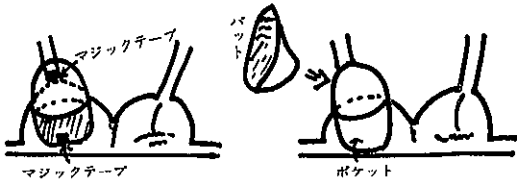


7. パット使用方法

① ブラジャー使用の場合 (図4)。

ブラジャーの内面に、マジックテープを使用してポケットをつけ、パット自身にもマジックテープをつける。

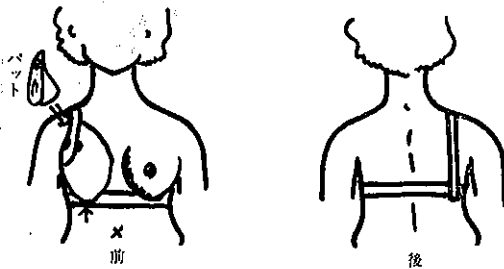
図 4



② ブラジャーを使用しない場合 (図5)。

パットカバーに平ゴムをつける。

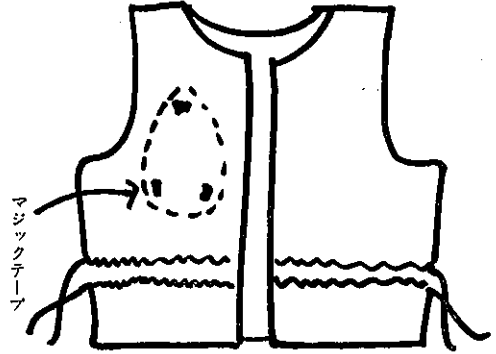
図 5 ↑の部分に輪にし移動が自由に出来るようにする



③ 肌着にマジックテープをつけ両側をブラッキングし、キャミソール型を作製する (図6)。

8. 以上の作業は、できる限り患者とともに行った。

図 6 ヒモを縮めると体位に合いパットもしっかりフィットする



II 結果及び評価

1. 乳房の型取りについては、術後健側で型を取ったため作製が困難であった。今後は術前より説明指導し、患側の型取りがよいと考えられる。

2. 布の染色については、ティーパック5個で3時間煮て、一夜つけたものが一番肌色に近く、洗剤使用後も色落ちがなくよいと思われた。

3. 作製パット材質について

① 青海綿の場合：肌ざわりはよいが弾力性に欠け洗濯不能である。

② ナイロン綿の場合：型がとりやすく型くずれもせず、洗濯が可能であったが、吸湿性に欠け暑く肌にフィットしなかった。

③ 青海綿、パンヤ、ナイロン綿の場合：型がとりやすく弾力性に富み、肌ざわりがよく、乳房に近い軟らかさであったが、洗濯が不能である。

④ パンヤ、ナイロン綿の場合：型がとりやすく洗濯不能である。

⑤ 青海綿、ナイロン綿の場合：綿同士がなじまず、型がとりやすく、肌にもフィットせず、洗濯も不能である。

以上より、青海綿、パンヤ、ナイロン綿の混合のものが適していた。

4. パットカバー作製については、マジックテープの使用により固定もうまくでき、出し入れも簡単である。

5. パットシート作製については、汗の吸湿性

がよく洗濯も可能で、簡単に取り替えることができる。

6. 重みの作製については、パットのみでフィットしたため重量感の必要はなかった。

7. ブラジャーを利用し、パットを使用した場合、固定がしっかりして安定感があったが、年齢の制限があり、試着した際、暑い感じがした。

また、ブラジャーを使用しない場合、作製や着用在が簡単であり、圧迫感もなく固定しやすく、高齢の方に喜ばれた。

他に、肌着で応用でき、夏の軽装にも活用することができる。

### Ⅱ 考 察

乳房切断患者の補整具として、これまで布・ガーゼで作製する試みはあったが、大胸筋の欠損を補う補整具は作製されていない。理想的な補整具であるための条件としては、

- ① 術前の乳房に近い型
- ② 安価で今まで使用していた下着を利用できるもの
- ③ フィット感
- ④ 肌ざわり
- ⑤ 吸湿性
- ⑥ 型くずれしない
- ⑦ 衛生的
- ⑧ 着脱が簡単
- ⑨ パットの適当な重量感

等が考えられる。

市販補整具着用者からは、「吸湿性にかける」、「重い」、「高価である」などの意見が聞かれた。これに対して私達が作製した補整具は、ギブスを使用しての型取りにより、個々に合ったパットができ、また身近な材料を使用し、下着の改良により安く手軽に作ることができた。フィット感、肌ざわり、吸湿性、衛生面などについては、実際に患者及び看護婦の着用によりよいものを選択することができた。キャミソール型やゴム式により着脱が容易になり、また、幅広い年齢層にも使用できるようになったと思われる。パットの重みについては、フィットすることにより全く重み

図7 市販された補整具着用は、乳房部分のみ補整で、大胸筋切除部分のカバーはできない



図8 作製補整具着用では、乳房及び胸筋のカバーができる



の必要なく、むしろ形態が重要であると考えられた。

この研究を通し、患者とともに作製していく中

図9 市販補整具使用しTシャツ着用では切除部分の陥没がはっきりわかってしまう



図10 作製補整具使用しTシャツ着用では乳房は左右対称で切除部分の陥没がまったくわからない



で患者の内面に触れることができ、ひそかな訴えも聞くことができた。これは患者自身が病気を受け止め、前向きな姿勢があったことと、同じ女性であることで互いに身近な問題としてとらえることができたからと考える。今後入院時、術前よりパンフレットを使用して補整具の指導をすすめていく中で、少しでも患者の持つ不安を受け止め、緩和できるのではないかと考える。

### おわりに

今回の研究で、わずか3例ではあったが、個々にあった補整具が着用できるようになり、人目を気にすることなく行動できるようになったという声も聞かれた。

今後、補整具作製の指導の充実をはかるとともに、個々にあったものを簡単に作製できるように工夫していきたいと思う。

この研究にご協力下さった皆様に深く感謝します。

### 参考文献

- 1) 酒寄マサほか：乳癌患者の看護。臨床看護 6 : 1417, 1413~1419, 1980.
- 2) 竹内京子ほか：乳癌患者の経時的心理変化。第15回日本看護学会集録，成人看護（千葉），129~135, 1984.
- 3) 松本美由紀ほか：乳癌患者への看護。看護学雑誌, 48 : 760~764, 1984.